東京高連ニュース

発　行
東京高齢期運動連絡会
電話03(5956)8781
FAX03(5956)8782
em:tokyo.koureiki@gmail.com
発行人：菅谷正見

第33回東京高連総会
14団体23名参加
活発な討論で成功

3月1日 豊島区東部区民事務所で

2月26日の「ゆたかな高齢期をめざす東京のつどい」に続いて、3月1日豊島区東部区民事務所で第33回東京高齢期運動連絡会総会が行われた。

東京のつどいは100名近くが参加し成功しましたが、年1回の総会は、14団体・組織（加盟組織49）から23名の参加でした。総会議長に東京社保協の小川さんを選出、千野会長あいさつのあと新生存権裁判と社会保障～たたかうことで前進する～と題して、都生連の窪田光さんを講師に、総会恒例の学習会を行った。

総会は菅谷事務局長から、2024年度の活動報告とその特徴、2025年度の活動方針が提案。続いて会計担当事務局の早川さんから会計報告、新年度予算案の提案、会計幹事の石塚さんが監査報告を行った。

参加各地域・団体の報告では、三多摩地域からは先の東京高齢者のつどいに、地元地域として成功させるために、5つの団体で協議し、参加費に対する援助を決め、参加者全体の過半数を超える参加を確保した。

葛飾からは、地域の要求を大切に活動し、補聴器購入補助の増額につながる報告があった。続いて、新年度役員の提案、総会決議案の提起があり、議長から各報告・提案の一括採択が提起され、拍手で承認された。

新役員には、北区高齢者集会実行委員会から森松伸治さんを選出し、長く会計監事を務められた石塚恵章さんに代って、大寿美幸子さんが選出された。

高齢者の経済負担を減らし
全世代にやさしい社会保障を

物価は34ヵ月も連続して上昇、キャベツは3倍、白菜は2倍の高さ、過去最大の伸びを記録、調理食品などにも価格転嫁の動きがあり、家計を圧迫しています。

物価高騰によって年金が目減りし、年金生活者、高齢者は大きな不安を抱えて日々暮らしています。国民民主党は、総選挙の公約に「尊厳死の法制化」を掲げました。維新の会の吉村代表は、X（旧ツイッター）で社会保障改革案について「医療費の約40％を75歳以上の高齢者が占めるとし、後期高齢者医療制度の原則1割負担を、原則3割負担に増額を」と主張しました。

「尊厳死の法制化」も医療費負担増も「高齢者いじめ」、必要なことは、高齢者の生命と暮しを守り、その経済的負担を減らすことではないでしょうか。

自公政権のもとで、社会保障費を削減し、大企業や富裕層の負担を引き下げ大軍拡に予算を注ぎ込む政策が進められてきましたが、さらに社会保障費を削減するのが維新や国民民主党の政策です。

政府は社会保障の予算を抑えるために高額療養費上限額を引き上げようとしましたが がん患者団体の命がけの訴えをはじめ、国民の怒りと運動が石破政権を「凍結」に追い込みました。

声をあげれば政治は動きます。ここで手を緩めず、全世代を脅かす高額療養費負担限度額引き上げは「凍結」ではなく、白紙撤回にまで追い詰め、さらに、負担限度額の引き下げ実現をめざしましょう。

6月には都議会議員選挙、7月には参議院議員選挙が行われます。

これらの結果は国民、とりわけ高齢者の暮らしに大きな影響を与えます。私たちの要求を実現させる候補者をみなさんで応援し躍進させましょう。

会長　千野律子

第33回ゆたかな高齢期をめざす東京のつどい
全体会は盛り上がった！
═══2月26日　たましんRISRUホール═══

いま、世界も日本も大きな曲がり角、転機にぶつかっています。それを受けて、私たち高齢者は何にどう取り組むかが問われたつどいの全体会でした。

参加者も三多摩の人達の奮闘で目標の１００名を超え、上野千鶴子さんの講演はじめ、元気の出る集会になりました。

基調報告は菅谷事務局長から、物価高騰、75才以上の負担2倍化、マイナ保険証の強行などの社会保障の改悪に国民が苦闘する中、一方で大企業の大儲け、内部留保の激増という異常事態が進んでいることに年齢間の分断を乗り越えてとりくもう、６月の都議選、７月の参議院選で日本高齢者人権宣言を基本に据え、要求実現の機会としようと呼びかけました。

記念講演は上野千鶴子氏（東京大学名誉教授、ＮＰＯ・ＷＡＮウィメンズアクションネットワーク理事長）は、「どうする　どうなる介護保険～おひとりさまの老後がアブナイ」というテーマで講演いただきました。

高齢者が孤立している、させられている実態を踏まえ、どう対応していくのか、乗り越えていくのか。高齢期の最大の問題である介護を支えるはずの介護保険が国民・高齢者の人権を踏みにじり、介護保険を改悪し続け、改悪・存続の危機にさらされている。その改悪の内容は？改悪を食い止める運動に何が求められるのか、についてユーモアを交えつつ、厳しく指摘されました。

国民民主や維新の会の尊厳死などの動きに苦言を呈し、高齢者自身がいのちの尊厳を守る運動を強めることを求められました。

特別報告として、区民に寄り添う行政で奮闘する杉並区の岸本区長誕生の原動力となった内田聖子さんが、杉並区のとりくみの現状と住民参加で進める苦悩と可能性について報告されました。多くの市や町でこれから選挙が行われます。その取り組みへのエールになった報告です。

その後、医療法人健生会の草島健二理事長から「だれもが“助けて”と言える社会をめざして」のタイトルで立川を中心とした大規模な活動の報告がありました。続いて、三多摩健康友の会の武蔵村山支部の井上忠男さんから「高齢会員訪問14年間のとりくみと特徴～80才以上の会員の24％の人が介護認定」が報告されました。14年間で延べ７，２６０人を訪問し、聞き取り調査を行うとともに、介護・認知症予防にとりくむ健康友の会の持続的なとりくみが報告されました。

（東京高連副会長　吉岡尚志）

【葛飾からの報告】
補聴器助成の改善求め交渉中

葛飾高齢者懇談会は２０１５年1月31日に結成され、今年10周年を迎えます。懇談会は結成当初から葛飾区へ高齢者の要求を提出し、区との懇談を行って来ました。

コロナ禍で一時途切れましたが２０２３年度から再開しました。葛飾区は補聴器購入費助成では都内でも先駆けて実施しましたが３５，０００円のまま据え置かれ、近年では23区内でも遅れた自治体になってしまいました。懇談会は毎年購入費助成の改善を要求してきました。区内では「聞こえ学習会」があちらこちらで開催されそれらも運動の力になりました。東京都の補聴器補助制度も学習し24年度の区への要望書にも反映させました。そんな折、25年度予算案で補聴器助成の改定が提起されることを知りました。内容は「65歳以上の区民で耳の健康診査を受診し、医師が補聴器の必要性を認めたもの、内容は、住民税非課税者１４万４９００円、課税者は７万２４５０円の助成をする。過去に補聴器購入助成を利用している場合は、５年間経過後に１回に限り助成する。65歳から74歳まで耳鼻科での「耳の健康診査」を無料にする、実施は10月を予定する」というものでした。懇談会では早速、葛飾区に対して「10月実施ではなく４月実施」を求めて葛飾区へ要望書を提出しました。同時に区議会各会派への「４月実施へのご協力」の申し入れを行いました。いずれにしても今回の葛飾区の改定は都内でもトップクラスの助成内容だと思います。懇談会では引き続き①なぜ耳の健康診査が65歳から74歳までなのか②補聴器購入後のサポート体制の確立③制度の普及、わかりやすいパンフレットの作成④区役所へ専門家（認定補聴器技能者）を配置した相談窓口の設置、などを求めて取り組んでいきたいと思います。

三多摩地域の高齢期の取り組み状況

つどいの成功めざし、頑張りました

三多摩高齢期運動連絡会は、２月２６日に三多摩で初めて開催された「東京のつどい」の成功のために取り組んできました。

つどいには三多摩地域から約７００人が参加するなど、当初掲げた７００人目標をやり遂げることができました。とりわけ、開催地の立川周辺の地域からの参加や人数の多少はあるものの全ての地域からの参加があり、上野講演や地域からの報告などにも励まされ、今後の取り組みにつながる集会となりました。

三多摩では、この間地域要求の実現に向けた取り組みの交流に重きをおき、各地域での取り組みや要求、自治体への要望内容や懇談形式などについて交流を行い、それを持ち帰って地域にいかしていくことを念頭に、２ヶ月に１回「地域活動交流集会」を開催し活動してきました。

また、自治体アンケートを全ての自治体で取り組むことや、提出されたアンケート結果を各地域で検討分析し、地域の実態を掴み要求に反映していく取り組みを重視して交流に取り組んでいます。今後、各地域で抱えている問題をつかむために独自に地域の実態をつかむアンケートの検討などを行っていく予定です。

最後に、三多摩地域でも運動をになう役員の後継者対策が課題となっています。この間、女性役員の参加が増え始めていますが。粘り強く幅広く団体や地域に呼びかけていくことに取り組んでいきます。

北区高齢者集会

実行委員会に多くの団体が結集

第32回北区高齢者集会が2月16日東京土建北支部の会館で開かれ、過去最高の延べ２３０人が参加しました。

午前は、ちぎり絵教室、モザイクタイル教室、血圧・体脂肪・握力の測定、スクエアステップ体験などの参加型の企画と、ほっとカフェのコーヒー、パン・ケーキの販売、野菜、お弁当、お菓子、手作りのバッグやストラップの販売などのコーナーが行われ１１０人が参加しました。

午後の集会は、ハーモニカ演奏、フルート&ギター演奏で始まり、平山陽子医師の記念講演「もし認知症になったら?」が行われました。会場にあふれる１２０人の参加があり、講演のあとには質問もたくさん出され、認知症についての関心の高さがうかがわれました。

最後に、「高齢者は、多少血圧があがっても、怒らなくてはなりません。」「怒りが情熱となり、苦しみを乗り越える反発心が、政治を揺り動かします」と訴えるすてきな集会アピールを採択して集会を閉じました。

北区高齢者集会実行委員会は、１９８８年にスタート。東京ほくと医療生協、東京土建北支部、年金者組合北支部、北区生活と健康を守る会、新婦人北支部、北区母親連絡会、北区労連、建交労北部支部、北区平和委員会、北区社保協　などが参加して、日本高齢者大会に向けての地域連絡会としての性格と北区高齢者集会主催団体の性格とを併せ持って活動しています。

西東京社保協・訪問介護事業所にアンケート

訪問介護報酬が引き下げられるなか、昨年12月西東京社会保障推進協議会は、市内の訪問介護事業所を役員が直接訪問してアンケート用紙を渡し、アンケート調査を行いました。

多くの訪問介護事業所が報酬改定に不満を感じ、事業運営に悪影響が出ていることがわかりました。特に、賃金や人材確保に関する課題が多く挙げられています。

世田谷区（業者に88万円支給）や新潟県村上市（遡って報酬差額補填）など自治体独自の補助事業を行っているところがあります。西東京社保協は、市に独自の支援策を求めています。４月１３日（日）１３時３０分から　田無公民館で報告・学習会が行われます。

アンケート結果は13、https://x.gd/nisitoukyousvyにあります。

第38回日本高齢者大会
首都圏４都県共同、さいたま市で開催
政治改革めざす年に
ふさわしい成功を！

38回目の日本高齢者大会は、11月11日、12日にさいたま市の大宮シティ・ホールで開催します。首都圏の４都県の共同開催でこのような形式は初めてです。ぜひ成功させて、高齢期運動前進の力にしていきましょう。

今年の大会は政治や社会の変わり目の中で開かれます。昨年の日本被団協のノーベル平和賞の受賞、自民党政治の裏金体質が暴露された衆議院選挙での大敗とその後の石破内閣の守勢、さらに高額療養費の上限引き上げの政府方針を凍結させるなど、政治状況の大きな変化が生まれつつあります。

しかし、一方で大軍拡予算の強行、社会保障の削減などの方針は変えていません。アメリカ・トランプ政権が発足して横暴な政治がガザ、ウクライナで今日も展開され、日本が米国に追随することは許されません。

今年は戦後80年、多大な犠牲のもとに積み上げてきた平和な社会をいまこそ高齢者も先頭に立って世代間の分断攻撃をゆるさずみんなで協力して実現していかなければなりません。

第38回大会は中央実行委員会と４都県の高齢期運動連絡会が協力して準備します。

今回の大会の特徴は、日帰り圏からの現地参加も積極的に促しつつ、ウェブも追求する大会です。参加する前から「ワクワク感」のある、参加して元気になる大会をめざします。首都圏という特徴を存分に生かし、充実した分科会や講座を準備します。短歌などの文化活動、また健康マージャン大会や映画上映会などの企画も検討されています。

５つのテーマは今年も追い続けます。

1．高齢者の人権を守れ。日本高齢者人権宣言の学習、活用、高齢者の権利条約制定をめざす。
2．社会保険の自己負担を考え、減らし、なくす。
3．高齢者の生活実態に基づく地域での高齢期動を強める。
4．介護問題を考え、介護保険改悪を許さない。
5．年金問題の現状と課題。

そして、補聴器助成を求める運動、高齢者の住まいの保障、住民に寄り添う自治体の実現など魅力あるテーマを分科会、講座で準備します。皆さんの声を積極的にお寄せください。

日本高齢者人権宣言を基本にふまえた充実した高齢者大会を参加型でいっしょに作りましょう。

みんなで誘い合って参加しましょう。お待ちしています。

東京高齢期運動連絡会
運動資金カンパのお願い

政府・財界は、大軍拡と大企業優遇に財政をつぎ込み、物価高に追いつかない年金で生活の切り詰めを強いられている高齢者に追い打ちをかけるように、高額療養費の上限引上げ、介護の利用者負担の原則２割化など、次々に高齢者負担を増やそうとしています。

また、不便と混乱も無視してマイナンバーカード押し付けを進めています。こうした状況の中で高齢者の命と暮らしを守る多くの仲間の運動を交流し、推進する高齢期運動連絡会の役割はますます大きくなっています。

東京高齢期運動連絡会は、年金者組合都本部事務所の一角に事務所を置き運動を進めています。

財政は各団体からの年会費で約４０万円を基本としていますが、経常経費だけでも事務所費２４万円、会議費・事務費と資料作成などに２０万円弱、電話等通信費１０万円、資料等送付費用２０万円、役員の交通費２０万円、事務用品８万円などの支出があり、不足を賄うため高齢者大会などの行事の他、運動に関わるブックレットの作成販売、しおりなどへの広告の募集、カンパなど、手立てを尽くしていますが、財政は常に困難な状況です。

高齢者をめぐる現状の中で、運動を進められる安定した財政運営を可能にするため１００万円を目標として、団体、個人に広く運動資金カンパを呼びかけています。ぜひご協力ください。

1　東京高齢期運動連絡会　運動資金カンパ
2　目標額１００万円
3　団体は１口２０００円を基本に　財政的に可能な団体は複数口以上のご協力をいただきたくお願いいたします。個人任意。
4　カンパ袋を用意します。必要な団体はご連絡ください。
5　振り込みは次の口座にお願いします「運動資金カンパ」と明記してください。

※　ゆうちょ銀行
記号番号：00160―4―357421
口 座 名：東京高齢期運動連絡会

問い合わせは、東京高齢期運動連絡会へ、担当は、事務局長　菅谷 正見
財政担当　早川 明好
まで